

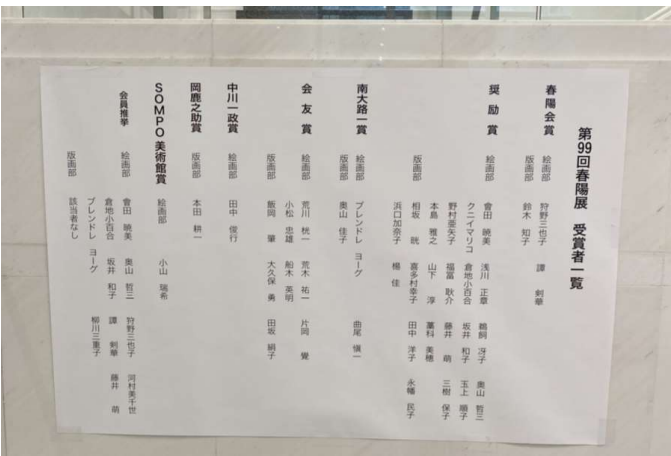
第 99 回春陽展 名古屋展



会期： 2022年5月17日(火)～22日(日)
会場： 愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター 8 階)
主催： 一般社団法人 春陽会
共催： 中日新聞社・東海テレビ放送・東海ラジオ放送



- 中部地区受賞者
- 春陽会賞
版画部 鈴木知子
 - 奨励賞
絵画部 會田 曉美 倉地小百合 版画部 永幡 民子
 - 南大路一賞
版画部
 - 会友賞
絵画部 ゆみこむらせ
 - 会員推挙
絵画部 會田 曉美 倉地小百合 河村美千世 柳川三重子



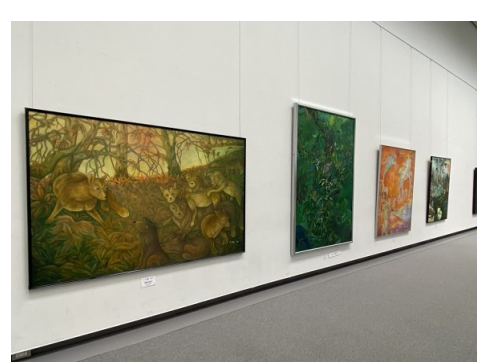
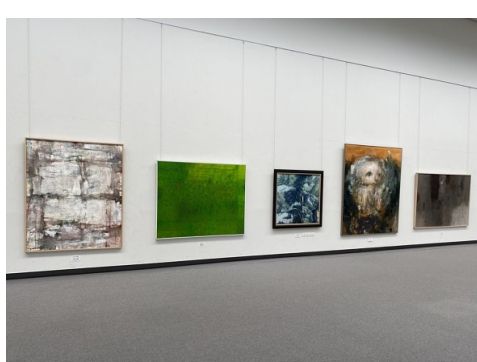
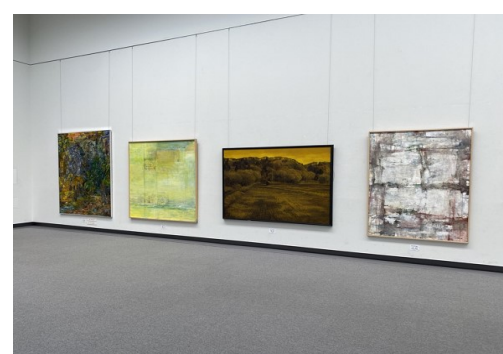
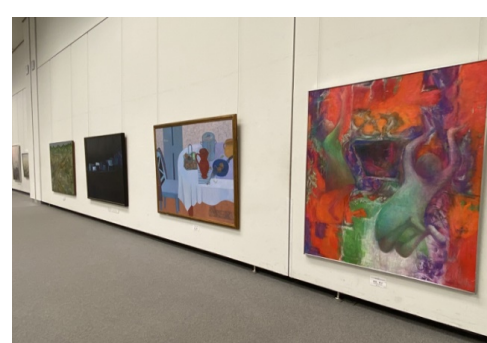
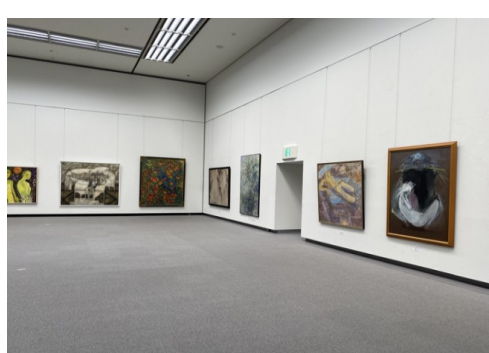
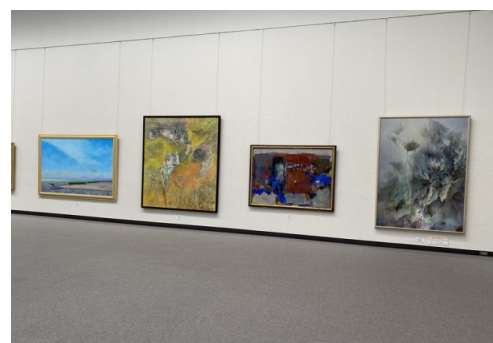
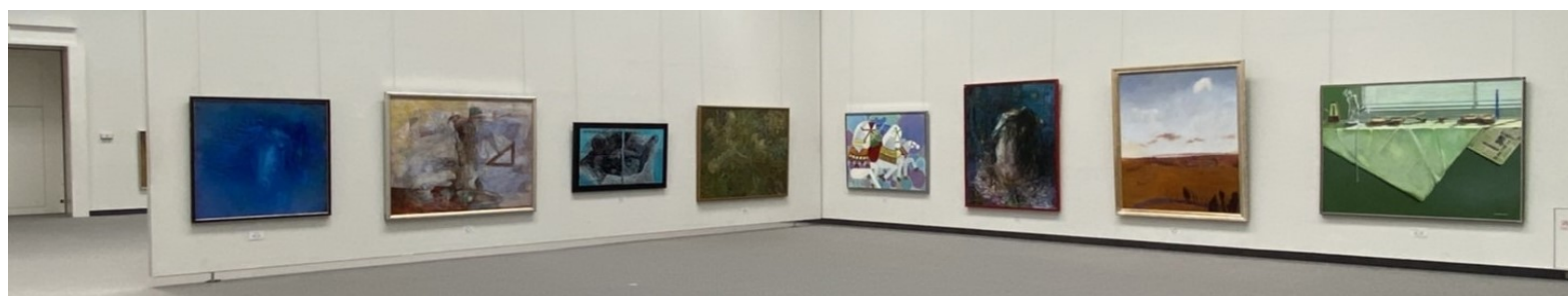
■アートツアー『伝統から未来に向けて』5月21日(土)10:30～11:30 講師:鈴木善晴、杉藤万里子

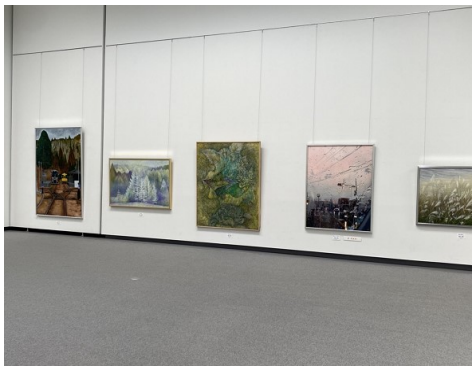
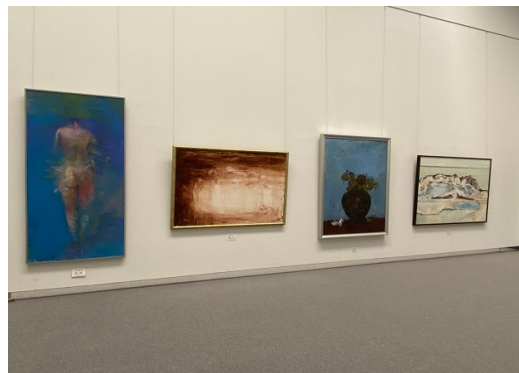
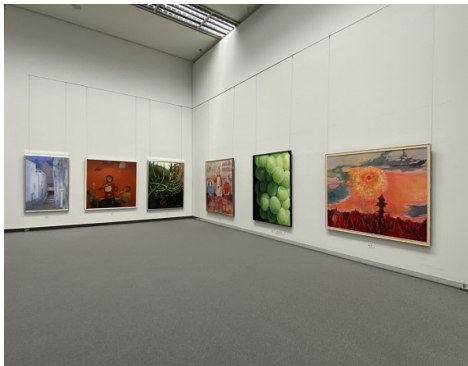
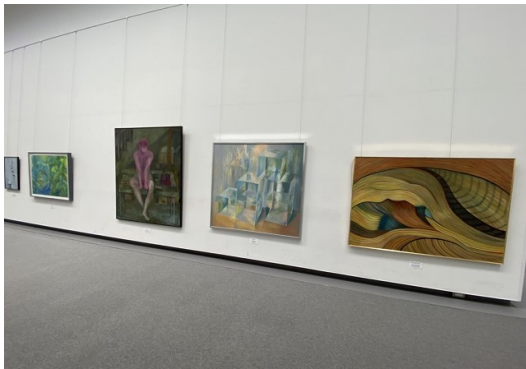


■会場批評会 5月21日(土) 13:00~14:30



■展示風景





春陽会の歴史

■概 史

1922 (大正11) 年、春陽会は、日本美術院を離れた小杉栄蔵、足立源一郎、倉田白草、長谷川昇、森田恒友、山本巖に梅原龍三郎を加えた7名で創立されました。また、このときに石井鶴三、今関啓司、岸田劉生、木村往八、中川一政、黒塚五郎等が専員として参加しています。

1923 (大正12) 年には、早くも第1回展が上野竹之台陣利場で開催されています。やがて、岸田劉生、梅原龍三郎等は会を去りましたが、会場も東京府美術館 (現東京都美術館) へと変わり、しだいに「後進で文人風」と評される春陽会の作風も定着して行きました。

1928 (昭和3) 年には、長谷川潔の入会を得て「版画家」が新設され、また、昭和10年代には岡 譲之助、三雲祥之助、高田力蔵等、九州からの後進者を新たに迎え、清新にして貴族な雰囲気をもたらされたのも特筆すべき出来事でした。

戦時中は一時の作家を失いましたが、1947 (昭和22) 年より公募展として復旧。版画の専任幹部をはじめ多くのすぐれた作家を集め、「絵画」「版画」ふたつの部を持つ有力な美術団体として今日にいたっています。また、若い世代を中心に、新たな造形意識に立った作品が多く見られるようになったのも、春陽会の近來の動向として注目されています。

